

## A B r i e f N o t e N o . 2 3 0

発行日：2015年11月18日

### ルリタテハの成長記録

千葉県八千代市 松尾 昌泰

5年程前に、我が家の裏庭にあるホトトギスの葉が虫食い状になっていた。そこには毒々しい毛を持った黒っぽい毛虫が何匹もいた。早速図鑑で調べると「ルリタテハ」の幼虫でした。それ以降、毎年ルリタテハが成長して蝶になり飛び立っています。

以前「ジャコウアゲハの成長過程」を写真に撮ったことがあるので、今回はこのルリタテハの幼虫から成虫への成長過程を写真に撮りました。



#### (1) ルリタテハとは

ルリタテハは中型の蝶で、翅の表面はビロードのような光沢をもった紺色で、瑠璃（ルリ）という名の通り鮮やかな水色の帯模様が入っています。

飛んでいると、よく目立ちます。

我が家では幼虫は9月～11月ごろ、2回ほど成長し飛び立ちます。

このルリタテハの成虫は、花の蜜には訪れず、クヌギやコナラなどの樹液によく集まり、忙しく飛び回っているので写真には撮りにくい。日光浴？をしている時は、翅を広げてままたま止まっているので、この時がシャッターチャンスです。

#### (2) 幼虫の食草：ホトトギス

幼虫はサルトリイバラやホトトギスの葉の裏に卵を1個ずつ生んでいきます。

卵から孵化した幼虫は、葉を食べながら、いつも葉の裏での生活です。

卵は1mm ぐらいの小さい球状ですが、産卵の時には気付かず、その様子や卵の写真は撮ることはできていません。





### (3) 毒々しい幼虫

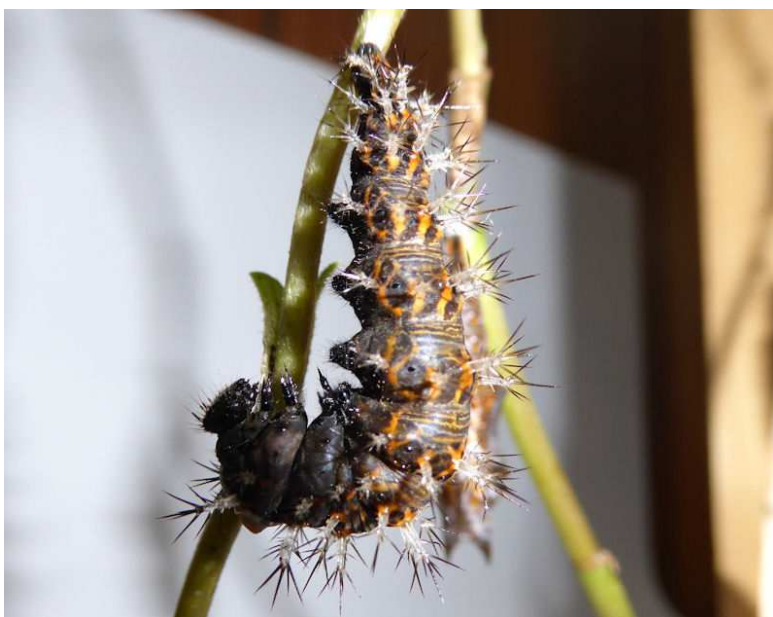
ちょっと見には、毒々しく、触ると毒がありそうですが、触っても痛くありません。黄白色の棘状突起を計68本持っているそうです。

この写真は、何回目かの脱皮後の幼虫（たぶん2齢）です。

脱いだ黒い皮（外套）がお尻の後ろに残っています。

幼虫はこのように何回か脱皮しその都度大きくなっていきます。

右の写真は、4齢ぐらいか、かなり大きく成長した幼虫です。



### (4) 幼虫から蛹へ

・・・逆さにぶらさがります

幼虫が食べるのを止め、茎などに体を下向きに固定し、ぶら下がります。これはサナギになる前です。

写真を撮る時に振動させたので、体を丸めてJの字になりました。

この段階は前蛹と云いますが、その日のうちに、次の写真のような蛹になります。





ジャコウアゲハなどのアゲハは、上向きに帯糸をかけますが、このタテハは尾の端で逆さにぶら下がります。

ぶら下がる場所は、ほとんどはホトトギスの茎ですが、中には葉にぶら下がったりもします。

左は、外壁を1.5メートルも登り窓枠にぶら下がった蛹です。

### 脱いだ幼虫の外套（脱皮）

・・・ 大きさは直径約1cm

幼虫から蛹になる時には、今迄のイガイガの針（棘状突起）のついた外套を脱ぎ捨てます。直径約1cmぐらいの大きさでした。



### (5) 羽化してよいよ蝶へ



今年は8頭の羽化を観察したのですが、蛹になってから羽化までは、すべて12日間でした。

残念ながら、羽化の瞬間は見る事ができませんでした。

蛹から出たばかりの蝶の翅は縮こまっており腹部は大きいのですが、翅を次第に伸ばしていくと腹部はスマートになります。

翅の裏面は、写真の様に灰褐色で細かい模様があり、綺麗な表面

とは対照的です。このルリタテハは、通常は翅を立てて止まりますので（この写真の様に）、樹皮や落ち葉に止まった時の保護色になっているのでしょう。



翅に体液を送ることで、翅を伸ばすそうです。翅が伸びきって不要な体液は排出されます。少し気持ち悪いですが、赤黒い排出物（蛹便、ようべん）で、排出跡の大きさは直径 1.5～2 cm ぐらいでした。

羽化した蝶は、数時間はそのままじっとして動きません。

午後一番に室内で羽化した蝶は、夕方までその場に留まります。

夕方に電気をつけて暫らくすると明るい電燈の近くに飛んで来ます。

右の写真は、翌朝、明るい窓の方に飛んでいき、カーテンに止まった時のものです。

カーテンを引き、窓ガラスを開けると、大空に飛び立って行きました。



ルリタテハは成虫のまゝで寒い冬

を越すそうで、無事にどこかで生き延び、暖かくなって姿を見せてくれることを願っています。



## （6）丸坊主になったホトトギス

多くの幼虫が羽化した後のホトトギスは、葉は食べられ丸坊主になっています。しかし、写真の右上には花をつけているのが見られます。

このように、丸坊主になったホトトギスでも翌年にはしっかり成長し、またルリタテハを迎えてもらいたいと思います。

以上